



東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

2024~2025 年度 テーマ

プロバスだより

第349号

2024 年 12 月 12 日発行

編集・発行 情報委員会

語り合いたい場、語れる場、学び高まる場

第 349 回例会

日 時 令和 6 年 11 月 14 日

場 所 夕やけ小やけふれあいの里

出席者 25 名

(会員総数 41 名 欠席 11 名 休会 5 名)

1. 開 会

岩島例会委員長

第 349 回例会の開催を告げ、配布資料の確認が行われた。

2. 会長挨拶

塚本会長

11 月の移動例会へのご出席ありがとうございます。

はじめに悲しいお知らせです
が「宇宙の学校」のリーダーの杉田信夫会員が 10 月 20 日ご逝去されました。ここに謹んでお悔やみを申し上げます。全員で黙とうをいたしますのでご協力のほどよろしくお願いいたします。



本日は場所を変え八王子の奥深い恩方の「夕やけ小やけふれあいの里」にて移動例会を、天気にも恵まれ紅葉の始まった彩の中でフリーキングタイムを設け例会が開けることをうれしく思います。この雰囲気の中で「語り合いたい場、語れる場、学び高まる場」になることを願っております。

初宿市長との“触れ合いトーク”を計画することへの意向は 10 月の例会時に会員承諾を得て進めておりましたが 12 月 10 日(火)午前 10 時と決まりました。会場は“びおら”にて会員の出席意向を本日まとめたいと思います。

今日の例会後のフリーキングタイムでは、会費については値上げの方向で検討することが 10 月の例会にて決まっています。そこで、皆さんのお声を十分に聴

き具体的内容にてまとめて行きたいと思います。八王子プロバスクラブがどんな活動をしていくのか、例会にかかる経費だけでなく、諸活動費を含めた運営費がどのくらいあれば今の活動を進められるのか等々の視点を持ちご検討をよろしくお願いたします。

例会出席の皆さん



3. ハッピーコイン披露

一瀬副会長からハッピーコイン 20 件の披露がありました。(5~6 ページに掲載)

4. パースデーカード贈呈

11 月生まれの橋本治義会員、深谷正徳会員、寺山政秀会員、杉山友一会員に池田会員手作りのパースデーカードが贈られました。



左から 杉山会員、塚本会長、橋本会員、深谷会員

〈誕生日 コメント〉 杉山 友一

89歳、思いのほか長生きしてきました。

「朝起きて みれば嬉しや今日も又 この世の中の人と思えば」そんな感謝の気持ちで毎日を過ごしております。あと3年くらいはプロバス現役でいたいのですが。

〈誕生日のひとこと〉 深谷 正徳

80歳になり、思い出すのは20歳の誕生日。病気に次ぐ病気のため留年を繰り返し、高校生の時に成人式を迎えました。

真っ暗闇な高校生活の中で、素晴らしい先生に導かれて教職の道へ進みました。その後も恩師に恵まれて教育一筋。そして、今なお放課後こども教室のアドバイザーとして活動することができるのはプロバスクラブのおかげと感謝しています。

〈誕生日のひとこと〉 橋本 治義

一日の終わりの夕焼けがこんなに美しいとは。いたく感動しました。いっぺんにあの楽しかった多感な少年の頃に戻りました。有難う。残された余生をこの色紙の絵のように染め上げることができればと願っています。

5. 幹事報告

齊藤幹事

本日は野外例会です。もみじの色を楽しめるスペースでしたが、秋も深まりストーブを焚いています。今日は会員・研修委員会の企画で皆様の声がしっかり会の運営に反映するようグループディスカッションをします。今後のプロバスの会費の件も方向付けができるようお願いします。秋らしい一日が実り多い一日になるよう期待します。

30周年実行準備委員会も理事会の承認を得てスタートしました。立川会員、杉山会員、下山会員を相談役として塚本会長、一瀬副会長、30周年実行準備委員長に持田会員、副委員長として泉会員、山本会員、丸山会員の9名の方々です。皆様のご協力をお願いいたします。

12月10日10時から「びおら」で初宿八王子市長とのふれあいトークをします。参加希望者は幹事の齊藤までお申し出ください。

新年会のビンゴゲームの景品は12月の例会にお持ちくださるか、「びおら」までお届け下さい。

6. 委員会活動報告

(1) 会員・研修委員会

秋の研修会（10月22日）の報告

国立歴史民俗博物館企画展

歴史の未来

「過去を伝える人・もの・データ」

今回の企画展ではさまざまな記録の一つに、橋本鋼二会員の父上、橋本義夫さんが立ち上げた「ふだん記」活動を取り上げています。普通の人が身近について記録することを「ふだん記」と名付け、昭和の地域文化活動として全国に広めたものです。

歴史家の色川大吉氏をはじめ地域文化の研究者が高く評価しています。現在も橋本会員ご夫妻のご尽力で各地の文友さんが活躍しておられます。発祥の地八王子市民として、ぜひ拝見したいと思いました。また常設展も豊富で、先史時代から現代まで見ごたえのある内容と聞きます。今回の6名の参加者もそれぞれの展示を楽しみに出かけました。

八王子から東京までは特急あずさで早くも旅気分、東京からは総武線でのんびりと緑の中を佐倉まで。駅前で待機していたバスで館到着。久しぶりのお出かけ、レストランでの話も弾みます。企画展には活動開始時の「ふだんぎ」創刊号、後継の「雲の礎」創刊号と最新53号など13冊がつつましく並んでいます。

私も毎号拝読していますが、内容の豊富さ、確かな編集力にいつも感服していました。そして今回の展示では、大勢の人々が関わった長い時間の積み重ねを感じました。その歴史をご存知の橋本ご夫妻には特に感慨深いものがあります。

企画展の後は広い館内を自由散策、各自好みの展示を鑑賞することに。先史・古代から現代まで5つのコーナーがあります。私はもっぱら先史時代の縄文土器関係で時を過ごしました。

同行の皆さんはそれぞれ関心のある展示を楽しまれたようですが、なんととっても広い館内、時間内に全館踏破には至りませんでした。まだまだ魅力的な展示がいっぱい。外には薬草園など庭園が広がっています。後ろ髪を引かれる思いで帰りましたが、また機会を作って挑戦したいと思います。

（記録 池田 ときえ）

(2) 地域奉仕委員会

「合唱祭」関係の経過

- ① 合唱祭へのすべての参加校が決まりました。小中学校 11 校と八王子キッズシンガーズが加わり 12 グループの出演となりました。
- ② 出演者生徒数は、274 名、先生・引率保護者など含めると 330 名になります。昨年の参加 8 グループと比べて大幅に増えたので、演奏時間の短縮、控室の割り当てなどに嬉しい苦心をしております。
- ③ これから、演奏曲の選曲、各曲の演奏時間（何分何秒まで）などを各校に提出頂き、立川会員・畑野茂美先生の協力を得て、ステージマネージメントの作成に入ります。
- ④ 1 月 21 日(火)に出演校全体説明会を南大沢にて行う予定です。そして、プログラムの作成をすることになります。
今後、クラブ会員の皆さんに分業して担務してもらいますので、ご協力をお願いします。

(3) 宇宙の学校

11 月 10 日に東京高専における「かさ袋ロケット」開催をもって、4 か月間にわたった本年度の「宇宙の学校」の事業はすべて終了しました。ご協力ありがとうございました。

かさ袋ロケットの発射



自由研究の発表会



7. 同好会活動報告

多摩 3 地区プロバスクラブ合同コンペ開催

10 月 31 日(木)に第 18 回多摩 3 地区プロバスクラ



ブ合同コンペを八王子プロバスが幹事役で長竹カントリークラブにて開催いたしました。

秋晴れの天候に恵まれ、紅葉にはやや早い時期ではありましたが、東京多摩プロバス、東京日野プロバスと当クラブの総勢 15 名の参加で楽しく親睦を深めながらプレーを致しました。

優勝は多摩の廣瀬様、ベスグロは日野の黒澤様でした。八王子からは泉・田中・塚本・持田の精鋭が出場しましたが、惜しくも入賞は逃しました。

次回は八王子からの参加を多くして臨みたいと思います。今回は全員が参加賞（にっこり梨）を受賞し、手ぶらで帰る人がありませんでした。

(記 事 持田 律三)

8. 移動例会で「話し合い」を開催

本例会は会員・研修委員会の企画により、出席者全員が語り合い討議をする「話し合い」の時間を持ちました。

11 月移動例会の報告

会員・研修委員会 池田ときえ

11 月の例会は久しぶりの移動例会として、恩方の「夕やけ小やけふれあいの里」で行われました。心配された雨もなく、広い園内は紅葉が進み、山々を背景に遠く近く赤や黄色の彩りが鮮やかでした。

総勢 25 名の参加者は、まず入り口で記念写真を撮り、11 時半から食事処「いろりばた」でバイキング方式の蕎麦定食です。各席では話が弾んでいました。

本日の会場「夕やけホール」は有志の皆さんが早々とテーブルセッティングしてくださり、予定通



り1時から例会が始まりました。広々とした会場の南面を開け放すと紅葉の借景が見事でした。

例会後にA～Dの4グループに分かれ、今日のテーマに取り組みました。初めに持田会員から会の財政状況について詳細な資料を基に丁寧な説明があり、その後話し合いが始まりました。積年の課題である会費の値上げ、高齢化による会員の減少、新会員の勧誘、ハッピーコインについて、プロバスクラブとしての良き活動とは等々、話題はいくつもありました。

途中でささやかなコーヒータイムを挟み、熱心な討論は時間いっぱい続きました。最後に各グループから検討内容が発表されました。この報告の内容は12月例会の資料として配布されますのでお目通し今回の移動例会の開催にあたって、車の提供を始め、会場の準備やコーヒーのお手配など、会員全員のご協力をいただきました。

おかげさまで、中身の濃い充実した移動例会を実現することができました。ありがとうございました。

A グループ

(岩島・有泉・塩澤・下山・土井・橋本会員)

B グループ

(一瀬・池田・飯田・田中・鈴木・根本会員)

C グループ

(深谷・斎藤・塚本・井上・土屋・野口会員)

D グループ

(持田・杉山・丸山・泉・大野・山本・橋本会員)

9. プロバス賛歌

起立・斉唱

10. 閉会

塚本 吉紀

本日は天候にも恵まれ、紅葉の始まったここ恩方の夕やけ小やけの里にて移動例会が開けたことを良かったと思っております。フリーターキングタイムの時間を初めて持ち、お一人お一人のプロバスクラ

ブへの考え方、思い、願いなどが語られた時間になられたことでしょう。今日の皆さんの声を大切に、これからのプロバスクラブ活動が、ますます盛会になることと思います。

訃報



杉田信夫会員が去る10月20日に逝去されました。杉田会員は平成29年3月に本クラブに参加されました。本年度は「宇宙の学校」PJリーダーを務められるなどクラブの発展に尽力されました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

故杉田信夫会員を偲ぶ

杉山 友一

プロバスクラブは高齢者の集まり故に、ときに訃報に接する機会もままあることと承知していたのだが、自分よりも遥かに若い会員の訃報には殊の外胸が痛みます。杉田会員は戦後生まれの76歳、老生より13歳も年下でした。改めてご冥福をお祈りする次第です。故人と老生との出会いは、日野プロバスクラブとの交流の中で、日野の大島会員さんのご紹介で、八王子に大変真面目で実直な社会保険労務士の友人がいるのだが八王子のプロバスクラブに誘ってもらえませんか、と相談を受けたことに始まりました。そんなご縁がきっかけで氏は平成29年4月から我が八王子クラブに在席されたのです。氏は皆様ご承知のように、クラブの看板事業、八王子「宇宙の学校」では下山プロジェクトリーダーの後を継いで大きな足跡を残してくれました。紙面をかりて改めて感謝を申し上げる次第です。氏のプロバスクラブ愛は大変大きなものがあり、死の直前までクラブ内に麻雀同好会の立ち上げを、と奔走していたことは皆さまご承知の通りです。翻って、氏の人生観、死生観の中では、死をこの世で絶対かつ平等な、たった一つのものとして捉えていて、慌てず騒がずに如何にも淡々と西方浄土への旅立ちをされたとの印象があります。この点は、葬儀の折、改めて奥様、お子様方とのお話の中でも確信した次第です。その後ご家族のお話では、ライセンス業種の社会保険労務士事務所のお仕事の継続も手筈を整え中

とのことでこれまた何よりでした。末筆ながら、故人のプロビアンとしてのご活躍に重ねて感謝を申し上げ、先月 24 日のお別れに重ねてご冥福をお祈り申し上げ偲ぶ言葉と致します。

訃 報



矢島一雄会員が去る 11 月 5 日に逝去されました。矢島会員は平成 14 年 9 月に本クラブに入会され、16 年間在籍されました。この間、平成 20 年 7 月 1 日から第 13 期会長を務められるなどクラブの発展に尽力されました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

矢島一雄句友を偲んで

河合 和郎

矢島一雄会員が逝かれた。11 月 15 日・92 歳の
大往生であった。矢島句友は私にとって八王子市役所の先輩であり、クラブ活動においてもご指導を頂いてきた。そしてクラブの同好会活動の中で、俳句という共通の趣味のもとに、俳句同好会のメンバーとして、親しく深いお付き合いを重ねてきた。

クラブの中にあっては、写真・囲碁・ゴルフなど多彩な同好会活動をされ、特に写真撮影の分野では、あのヒマラヤの主峰の撮影にまで遠征されている。平成 30 年には同い年の奥様と 85 歳のお祝いとして「170 歳二人展」を開催された。展覧会での二人の仲睦まじいご様子が眩しかったことを覚えている。

プロバスクラブの俳句同好会には平成 28 年 7 月の句会から参加され、今日まで 8 年余にわたり、毎月の句会や吟行会の企画など、楽しく充実した時間を共に過ごすことができた。最後まで句会のことを気にされておられた由を奥様から伺い、句友の一人として、ご一緒できて何よりだったと改めて感謝の念でいっぱいである。私の立場からは、矢島句友の作品にふれて、句友を偲びつつ、送別の辞としたい。

矢島句友は常に静かな物腰の中で、ゆったりとしたマイペースで作句され、鑑賞されていたことが印象に残っている。作品の多くは旅と山の風景描写が

多く、写真家としての視点が色濃く映し出され、スケールの大きな作風であった。

初めての句会に＜雲海の渦突き上げて槍ヶ岳＞を出句された。まさに山岳写真の一幅である。その後も＜雷一閃走る雲間に五竜岳＞＜岳人を峰ごと包む夏の雲＞＜甲斐の山下りし里の走り蕎麦＞などなど、正に岳人そのものの作品であった。

数ある作品の中に＜林檎剥く妻の背丸き寒さかな＞の一句があり、妻へのやさしいまなざしが心を打つ。

最後に私が生まれ育った安土を安住の地とされた矢島句友に＜送るやに安土の森の鶉の声＞を捧げ、お別れの言葉としたい。



- ◆今日もこの会に出席できることの幸せを感謝して。
土井 俊玄
- ◆ひ孫が生後 5 か月になり健康であることでハッピー。
土井 俊玄
- ◆国立歴史民俗博物館企画「歴史の未来 過去を伝える人・もの・データ」に「ふだん記」運動の文書類が出展要請されたので、プロバスの友人 4 人とともに見に行きました。
橋本 鋼二
- ◆久しぶりの「夕やけ小やけの里」懐かしいです。
素晴らしい環境の中での例会大いにハッピー！！
田中 信昭
- ◆今日は久しぶりの野外例会になりました。気分一新でフレッシュな頭で討議できれば HAPPY!!
持田 律三
- ◆10 月初めにコロナにかかりました！「ゾコーバ」という高い 1 粒 6,000 円の薬 8 粒飲んで何も
なく治まりました。5 日間自宅待機しましたが、後遺症もなく、家族へうつすこともなく HAPPY!!
持田 律三
- ◆この 11 月 3 日で満 89 才になりました。自分でも驚いています。11 月 3 日朝自分のほっぺをつねってみたら痛かったのが、本当です。
橋本 治義
- ◆幾つになっても、日帰りでも、合宿とは楽しいものですね。今日は紅葉に乾杯!!
泉 道夫

- ◆これからのハッピーに期待して 山本 通陽
- ◆久しぶりに「夕やけ小やけふれあいの里」会議も
食事も雰囲気も楽しみたいと思います。

有泉 裕子

- ◆孫結婚式終了 下山 邦夫
- ◆本日バースデーカードを頂きます。長生き、ハッ
ピー!! 杉山 友一

- ◆10月例会でシニア・ダンディーズの演奏、クラ
ブメンバー全員参加の歌唱、とても楽しい時間を
持つことが出来ました。大きな声で歌うことは
Happy!! 立川 富美代

- ◆八王子学園八王子高等学校美術コースの生徒が第
36回全日本デザイン・クラスト展にて内閣総理
大臣賞を二年生の山本君が受賞、この賞を3年連
続で八王子学園生が受賞しました。この他に15
名の生徒が文部科学大臣賞はじめ、何らかの賞を
受賞しました。それにより学校団体賞をもいただ
きました。 塚本 吉紀

- ◆八王子学園八王子高等学校吹奏楽部が全国大会に
出場することは10月に皆さんにお伝えしまし
たが、この大会にて、八王子学園ははじめて金賞を
いただきました(全国で10校受賞)。応援をあり
がとうございました。 塚本 吉紀

- ◆紅葉もまだきれいにではないが、久しぶりに「夕
やけ小やけ」に来て美しい紅葉を1本見ることが
できた。 飯田 富美子

- ◆久しぶりに「夕やけ小やけ」の会 なつかしく思
い出されます。土井俊玄さんの顔が鮮明に思い出
されます。 飯田 富美子

- ◆素晴らしい紅葉に迎えられ本日特別例会をこの夕
やけ小やけの里で開けることを研修委員会として
嬉しく思います。きっと実りある交流の1日にな
ることでしょう。 根本 照代

- ◆「夕やけ小やけふれあいの里」は初めて。場所を
変えての例会も時にはいいことだと思う。今後の
プロバスについて共通認識が深まれば。

一瀬 明

- ◆いちよう祭りの季節になったが、例年と様相が大
分違う。暑い夏が影響しているのかな。

一瀬 明

俳句同好会便

私の一句(十一月の句会から)

河合 和郎

矢島一雄句友が亡くなられた。句友として8年余のお
付き合いであった。重厚な句風で山岳風景の描写を得
意とされた。心からご冥福をお祈りしたい。

賑はひは軒の干柿鄙の道 馬場征彦

人気のない山村のひなびた風景が干し柿の賑わう
描写によって一景となった。「干し柿が賑わう」と
はうまい措辞。鄙の道との対比が巧。

閉じしまま貝は化石に秋の浜 田中 信昭

秋の浜辺で貝の化石を発見。閉じたままの貝の化
石。何か物悲しさを感じさせる。言わずして秋の季
節の物悲しさを詠んで秀。

秋寒や旅の終りの残り酒 池田ときえ

秋は旅が似合う季節。列車の旅も終着駅へ。残っ
た酒への未練と旅の終わる寂しさと。そこはかとな
い余韻が漂う一句となった。

見下ろせば秋咲きバラの紅の濃さ 下山 邦夫

バラの花の紅の濃さ一点に絞った写生句。紅薔薇
に見入って立ち尽くす作者の姿が浮かぶ。一点集中
は俳句作りの醍醐味でもある。

老いの秋夫婦でかかる診療所 野口 浩平

夫婦そろっての病院通い。年齢を重ねるとありが
ちな日常を一句に。「やれやれ」という嘆き節の一
句でもある。

晩秋の夕日に遊ぶ茜雲 飯田富美子

きれいな写生句。雲を紅に染めて暮れゆく秋の夕
景。を詠んで秀。「夕日の遊ぶ」の措辞のうまさ
がこの句を生かしている。

七五三晴れ着姿のVサイン 河合 和郎

最近の若い人はカメラを向けられると必ずVサイ
ンかハートマークをつくる。七五三のVサインも令
和の記念写真として残ることであろう。

編集後記

今月号は、移動例会報告、宇宙の学校、秋の
研修会報告等の種々の記事を中心に、6ページ
の編集となりました。

情報委員会